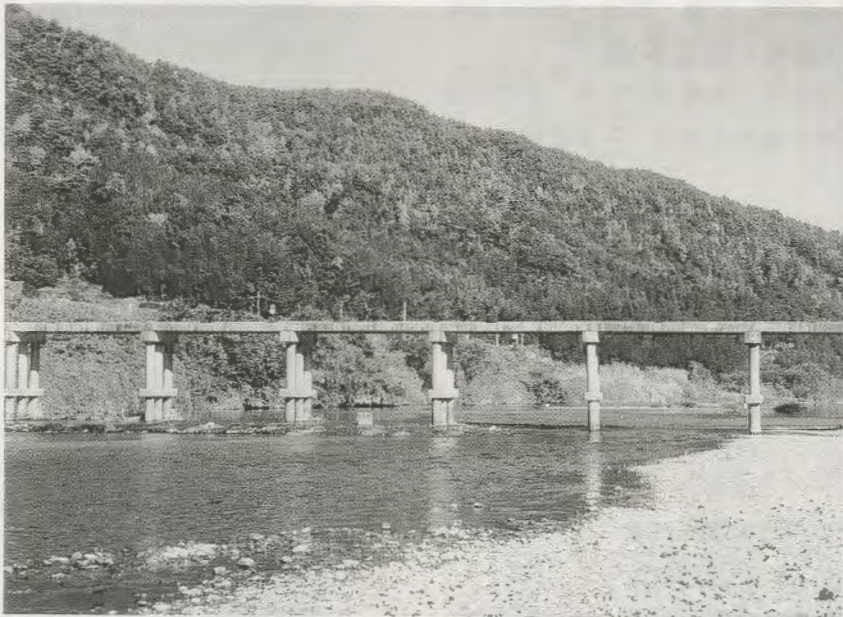


# 光市医師会報

昭和63年11月号

No. 193



秋 澄 む

光市医師会

## 医師会月間行事

### 昭和63年10月度理事会

10月11日(火) 午後7時30分～9時30分

光市医師会館

出席者; 竹中会長・福本副会長

藤原・赤崎・近藤・梅田・吉村各理事

#### 議 題 (報告・協議事項)

- 1) ファクシミリ機種選定の件 (竹中会長)  
諸種条件を検討の結果、三洋電機の機種に決定。
- 2) 夜間診療問題について (竹中会長)  
他市で夜間診療が討議され、具体的に動き出そうとしている所もある。当医師会でも検討の時期が来ているのではないか。資料として当医師会の夜間診療の現状実態調査をしてみたい。
- 3) 麻薬受付・講習会の件 (丸岩理事)  
麻薬関係研修会講師巡遣、徳山保健所一堀・古野氏、10月25日
- 4) 納涼懇親会の会計報告 (梅田理事)
- 5) 秋のレクリエーション会計報告  
(梅田理事)
- 6) 光市医師会収支決算報告 (4～9月)  
(藤原理事)
- 7) その他
  - イ) 第2回山口県乳腺疾患研究会の開催について
  - ロ) 山口県医師会裁定委員会補欠選挙の推薦届出受理の送付について
  - ハ) 医業税制改悪反対など税制改革問題について
  - 二) 資格関係過誤発生原因調査結果及び

この種の過誤防止について

ホ) 新入会員一高野信一先生 (光市立病院整形外科) 10月1日入会

ヘ) 生涯教育関係

月例会で鳥枝先生の学術講演予定

心電図研究会を10月21日におこなう

10月研修会は下松市の引き受けて、10月26日、講師藤井英雄先生 (山口大助教授) 演題「最近の高血圧治療の考え方」

### 光三師会親睦球技大会

10月2日(日) 午後1時～

光市スポーツ公園

球技種目 ソフトボール

懇親会 午後6時30分～

光オリエンタルホテル

### 光市医師会定款等検討委員会(第6回)

63年10月18日(火) 午後7時～10時10分

光市医師会館

出席者; 廣田委員長・田中・中村(国)

中村(琢)・福本・藤原・吉村各委員

竹中会長

#### 議 題

- 1) 定款と細則の総括的検討

### 心電図研究会 (第4回)

(下松・光市医師会合同)

10月21(金) 午後7時30分～9時

光市立病院

演 題 「心電図の読み方」

講 師 徳山中央病院循環内科

部長 河野隆任先生

症例1) 心筋梗塞—河野先生症例

(主訴) 動悸・胸部圧迫感 63才、男

症例2) 低K血症—赤崎先生症例

(主訴) 四肢の筋力低下 31才、男

### 昭和63年10月度 月例会・研修会

(麻薬事務受付・講習会)

10月25日(火) 午後7時—9時

光市医師会館

#### (1)麻薬事務受付・講習会

徳山保健所 堀・古野主任技師

#### (2)研修会

演題 「胃カルチノイド症

症例及び文献的考察」

講師 光市立病院 鳥枝道雄先生



#### (3)月例会 (報告・協議事項)

イ) 夜間診療問題について

ロ) その他

1) ファクシミリの件

2) 第2回山口県乳線疾患研究会の件

3) 11月20日研修セミナーに学会バス  
運行

4) 「泥かぶら」入場券の件

5) 新入会員高野先生の紹介

### 乳がん検診担当者協議会

10月28日(金) 午後7時~

光市保健センター

出席者;

(光市医師会) 竹中・渡辺・富恵・

光武・松本・兼清・道上・佃

(保健センター)

川崎所長・松本係長

津村・瀬上保健婦

#### 協議事項

1) 出務人員配分について

2) 出務手当について

3) その他

### 県医師会行事・同関連行事出席

(1) 第109回定例代議員会

竹中会長出席—10月27日、県医師会館

(2) 結核審査会

福本副会長出席—10月20日、徳山保健所

## 新入会員紹介

### 高野 信一先生

光市立病院 整形外科



#### 略歴

昭和56年 山口大学医学部卒業

昭和57年6月～58年3月山口大学附属病院  
 昭和58年4月～59年3月横須賀米海軍病院  
 昭和59年5月～60年3月山口大学附属病院  
 昭和60年4月～61年6月山口労災病院  
 昭和61年7月～62年6月山口大学附属病院  
 昭和62年7月～63年9月済生会山口総合病院

10月1日より、光市立病院での勤務が始まりましたが、早や、1ヶ月が経ち、最初は、初めての土地という事もあり、とまどいの連続でしたが、漸く、少し、新しい生活にも慣れてきました。

何でもよいから、自己紹介的な一文を書く様にと、原稿用紙を、渡されましたが、さて、一体、何を書けばよいのか、悩んでいる所です。

元来、身体を動かすのが、好きな方で、下手な横好きで、色々なスポーツに、手を出していました。特に、アイスホッケーが面白く、暫く、一生懸命やったりしておりました。しかし、数年前に、スキーで、膝を負傷して以来、ランニングが不能となりホッケーも断念し、他のスポーツ一般とも、段々、疎遠になり、酒が飲める訳でなし、囲碁、将棋等の、頭脳的趣味がある訳でなし、結局、無為に、日々を過ごしているというのが正直直な所です。

ただ、ホッケーで学んだ、チームワークが大事だという事は、忘れぬ様に努め、周囲の皆様方に、余り、迷惑を、お掛けしない様、何とか、頑張っていこうと、思っております。宜しく、お願い致します。

## 退会

芦田一郎先生

光市立病院→山口大学附属病院整形外科

## 光三師会球技大会 医師会ドクターズ・優勝!!



## 光三師会ソフトボール優勝記

福本寿雄

光三師会の役員会で親睦球技大会を10月2日(日)にソフトボールをすることとなった。月初めで保険請求があり、又運動会、結婚式等予定のある人が多く反対したが、他の日では日程がとれないということで仕方なく決定させられた。

参加者を会員のみ募集したところ、応援を含めて19名も参加してくることとなった。ことに市立病院の先生が5人も出てくれ大いに助かった。若い先生が多く出場してくれ、竹中先生、板垣先生等熟年組は出る幕はなかった。

10月2日は朝少し曇っていたが、午後は次第に晴れてきて少々暑かったが、風があり丁度よいスポーツ日和となった。

午後1時半試合開始。第一試合、医師会は歯科医師会と対戦した。歯科側は若い技工士さんを入れていたが、赤崎投手の球が

変化球の切れが良く歯科側はさっぱり打てず、反対に医師会は打棒大いに揮い、10：3で大勝した。

つづいて第二試合はすぐに薬剤師会と対戦した。これも武田の若い薬剤師が入っていた為か、1回表に3点を先制され苦戦したが、我々も2回3回4回に1点づつを入れ最終回に打棒爆発、遂に逆転サヨナラ勝ちした。ハラハラする勝利であった。

私は自ら監督をかって出て、20年前に作った光医師会のユニホームを着て、三塁側に唯立っていただけであった。20年前頃は、今は亡き上野、亀田、大野先生達も張り切っており、年も35~40才で県医でも2回位優勝したことを思い出した。もう今後このユニホームを着て試合することもないだろうな〜と竹中先生達と話し合い、少々淋しい気持ちになってしまった。



シマッテイコウ

2~3人の先生の子供さんが応援に来てくれ、黄色い声で盛んに「父チャン、ガンバレ」「オジサン、ガンバレ」の大声援をしてくれたのは嬉しかった。板垣院長は試合とはおかないしにビデオカメラのシャッターを盛んにおしていた。第三試合（歯：薬）がすみ午後3時半に全部終了し、優

勝トロフィーは昨年につづいて医師会が受け取った。

午後6時半よりオリエンタルホテルに於て懇親会を行った。竹中会長の乾杯につづいて宴会に入り、話もはずみカラオケも飛び出し、とてもなごやかな雰囲気だった。成績・選手・受賞者・応援団は下記の通り

	1	2	3	4	5	計
第一試合						
歯	1	0	1	1	0	3
医	0	4	3	3	×	10
第二試合						
薬	3	0	1	1	0	5
医	0	1	1	1	3A	6A

優勝 医師会 2勝0敗

準優勝 薬剤師会 1勝1敗

3位 歯科医師会 0勝2敗

光医師会（ドクターズ）チーム 監督 福本

〔ポジション〕

〔打順〕

投手	赤崎	2番
捕手	東 → 鳥枝	8
1塁	藤原 → 富恵	7
2塁	山本	1
3塁	河内山(正)	4
遊撃	横山	9
左翼	須賀	3
中堅	道上	5
右翼	佃	6

〔応援団〕：竹中、板垣、渡辺、梅田、吉村、広田、丸岩

最優秀選手賞 河内山(正)

優秀選手賞 横山

珍プレイ賞 富恵、東、横山

ファインプレー賞 横山、河内山(正)

ホームラン賞 佃、須賀、河内山(正)

赤崎先生に、二試合完投、勝利投手賞を差上げるのを忘れていたこととお詫びします。

## 学術論文

### 多発性胃カルチノイド —本邦胃多発症例の検討—

光市立病院外科

鳥枝道雄・金福柱・濃川正信

山口大学第一外科 守田信義

山口大学第一病理 石原得博

カルチノイドは稀な腫瘍であるが、原腸系臓器における内分泌細胞由来の腫瘍で一種の functioning tumor と考えられている。本邦1983年の胃癌アンケート集計では、161例の胃カルチノイドの集計がなされているが、多発例はこれらのうち13%前後にすぎないとされている。最近われわれは、胃多発性カルチノイドの一例を経験したので、本邦胃多発症例の検討をあわせ報告する。

症例は39歳女性。昭和62年3月の成人病検診で貧血と胃の多発性隆起性病変を指摘され、精査の目的で当院を受診した。貧血は鉄剤の内服で改善したが、胃内視鏡検査の結果、胃体上部前壁に山田Ⅲ型1cm大の隆起性病変と胃体上部後壁に山田Ⅱ型0.5cm大の隆起性病変を指摘された。同隆起の生検の結果、異型細胞がみられたため後日ポリペクトミーが施行され胃カルチノイドの診断が確定した。血清ガストリン値は3000 pg/ml以上と高値を呈し、抗胃壁細胞抗体は40倍と陽性であった。多発の可能性を考慮し、同年5月7日R<sub>2</sub>のリンパ節郭清を含む胃全摘術を施行した。病理組織学的には曾我分類混合型のカルチノイドであった。浸潤は5mmまでで、胃上部および胃

中部に、カルチノイド腫瘍の芽と考えられる胃内分泌細胞の過形成巣と microscopic carcinoid tumor を無数に認めた。n<sub>0</sub>であり stage Iであった。カルチノイド腫瘍部はグリメリウス陽性で、フォンターン・マッソン染色は陰性であった。免疫組織学的には、腫瘍部はガストリン陰性で、胃前庭部にガストリン産生細胞の増生を認めた。術後経過は順調で、血清ガストリン値は正常域に復帰し現在外来で経過観察中である。

本邦胃多発性カルチノイドを集計してみると、24例のうち15例がび慢型であり、これらは臨床的に無酸症8/15(53%)、高ガストリン血症9/15(60%)、貧血8/15(53%)を伴っており、組織学的には胃上部粘膜萎縮7/15(46%)を伴っていた。現在の生検法では、胃びまん型カルチノイドの術前診断確定は困難であり、胃内腔の小隆起多発無酸症、高ガストリン血症、貧血からびまん型胃カルチノイドを類推し、このような症例には胃全摘術が妥当と考えた。

#### — 編集後記 —

朝夕の風が冷たさを増してきました。鳥枝先生に講演をいただきました論文の抄録を掲載しました。

10月号の高橋先生の名前の字が間違っております。(建が健になっておりました)お詫び致します。(吉村)

発行所	光市医師会 TEL 0833 72-2234
発行者	竹中昭二
編集者	会報編集委員会
印刷所	光市御崎町 中村印刷株式会社